特集 1

一株トマトって、どんなふうにできるのかな？

子育て支援委員会主催「親子で行く紀ノ川農協」

「親子で農業体験し、自然とふれあう中で食について学ぼう」と子育て支援委員会が企画。3月25日、10組の親子が参加しました。和歌山県の紀ノ川農協で、一株トマトの苗植えとタンポポ調査を行いました。

花満開の紀ノ川農業協同組合を訪問

産直一株トマトは25年前に、「安全でおいしいトマトが食べたい」という組合員の声から生まれました。紀ノ川農協はその産地です。

今年の桜は例年になく早く、3月というのに温暖な紀ノ川地域の山々は、薄いピンク色の山桜が黄緑色の新芽の木々の間に咲いています。裾野の畑ではスモモの白い花と濃いピンク色の桃の花が、満開に咲き誇っていました。一行は紀ノ川農協・宇田篤弘組合長の案内で、一株トマト生産者のお一人、井上富晴（いのうえ　とみはる）さんのビニールハウスを訪問しました。

生産者の井上さん(左)と宇田組合長(右)

大きなビニールハウスにびっくり

春の陽射しを浴びたハウスの中はとても暖かく、井上さんのご家族が苗の植え付け作業をしていました。参加した子どもたちは、2，500株を植え付けているという大きなビニールハウスにビックリ。

「土作りにもこだわり、農薬散布は一般の3割、化学肥料は5割以上減らして栽培しています。植え付けが終了したらすぐにマルハナバチで受粉します。果肉がつまったコクのあるおいしいトマトができますヨ」と井上さんは言います。

撮影日　3月25日

一株トマトが届いたら、今日のことを思い出して！

次に、トマトの苗の植え方を教わりました。「苗は、実が収穫しやすいように、花を自分の方に向けて植えます。トマトは花の向いた方向にしか実がでないからです。上手に穴を掘って植えてや～」。

井上さんの掛け声で、みんなで一列に通路側にしゃがみ、苗が入る大きさに両手で穴を掘って苗を植えます。土がホクホクとしているので、一人で3株ほど植えられました。

トマトは下から順に実がついて赤く色づき、一株に約4～5キロの実が成ります。今回植えた苗の分は、5月中旬に出荷予定だそうです。

タンポポにも国産があります

井上さんのハウスから、坂道を登りつめると、江戸時代に作られた大きなため池の土手にたどりつきます。ここでタンポポ調査を行ないました。宇田組合長から、減少していく日本古来の在来種と外来種の違いの話をお聞きした後、調査を開始。残念ながら、この土手のタンポポも外来種の方が多く咲いていました。

自給率を上げるためにも、一株トマトの予約を！

紀ノ川農業協同組合 組合長　宇田　篤弘さん

「トマトは施設栽培なので、生産量を急に増やすのは難しいですが、組合員さんが予約されることで、注文数が事前にわかります。さらにそれを作付けに活かすことができ、生産者も安定した栽培ができるのです。味も鮮度も自慢のできるトマトをぜひ味わってください」

おとなの感想

・普段は土遊びをしない子どもが、トマトの定植作業になると一生懸命していたのにびっくりしました。

・トマトがどんなところで作られているのかを知って、生協の野菜をより身近に感じる事ができました。

子どもたちの感想

・トマトの植え方を教えてもらって、ちゃんと植えられました。タンポポもいろんな種類がある事を教わり、今日は春のことを学習して良かったと思います。

・トマトを植えて楽しかった。つくし、とったの初めてです。ため池大きかった。

NEWS FILE

ニュースファイル

「消費税増税ストップを」～署名行動＆国会要請行動

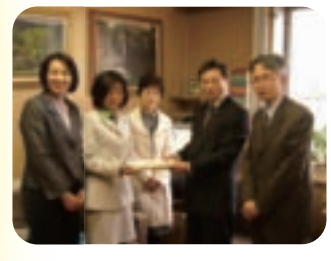
署名に取り組みました

4月1日、よどがわ生協など関西の生協が加盟する「消費税の増税に反対する関西連絡会」（消費税関西連）と「消費税廃止大阪連絡会」「消費税をなくす大阪の会」との3団体が共同し、なんば駅・高島屋前で署名活動を行いました。猫や牛の着ぐるみも参加し、にぎやかに53名の大宣伝で、171筆の署名が寄せられました。

増税反対の声を国会へ

3月23日、消費税関西連はこの間集めた署名22，187筆を持って国会要請行動を行いました。よどがわ生協からは理事・職員計2名が参加しました。

近畿から選出された全国会議員100名あまりの控室を訪ね、宣伝行動で寄せられた「100年に1度の経済危機。これ以上消費税率が上がったら耐えられない」「せめて食料品は非課税に」との声を直接伝えました。



食料自給率向上を求める署名が、31，299筆寄せられました

日本の食料自給率（カロリーベース）は40％、6割を外国からの輸入に頼っています。

また昨年は食品偽装や事故米などの事件が相次いで発生し、組合員さんからは「自分たちの食べるものは自国でまかなえるように」との声が多く寄せられていました。これらの声を受けて、よどがわ生協では背景にある食料問題の学習会や産地・工場見学、〝食〟を考えるひろばを開催し、学習や生産者との交流をすすめてきました。

合わせて「食料自給率を向上させるには食料政策を変えるように国に求めることが必要」と理事会で論議し、署名に取り組むこととしました。昨年秋から、配送時や店頭、様々な組合員活動の場、駅前などでも署名を呼びかけ、目標の25，000筆を大きく上回る31，299筆の署名が寄せられました。

この署名は、よどがわ生協も加盟する「食料を守り、日本農業の再建をすすめる大阪府民会議」（略称＝食農府民会議）を通じて、国会へ提出します。今後もよどがわ生協では学習や地域への宣伝活動など積極的に取り組んでいきます。ご協力よろしくお願いします。

店頭や駅頭での署名行動